

☆さつきばれ。通信☆

「みんなちがってみんないい」

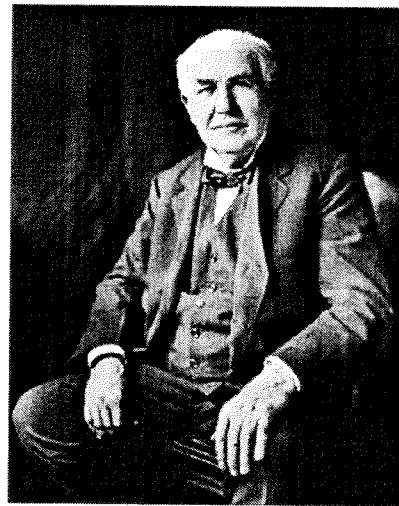
私の好きな言葉のひとつに「みんなちがってみんないい」というものがあります。これは有名な金子みすゞさんの詩『わたしと小鳥とすずと』の中に出てきます。

<わたしと小鳥とすずと>

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面(じべた)を速くは走れない。

私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。



A stylized, cursive signature of Thomas A. Edison.

画像引用：Wikipedia

世の中には色々な人がいます。色々な人がいるから面白いのです。みんなちがって、みんないいのです。

“みんな一緒”だったらきっと今のような便利な文明の利器や、素敵な絵画、癒される音楽はなかったかもしれません。

例えば、日本でも多く普及しているスマートフォンや携帯電話のもとである、蓄音機を発明したトーマス・A・エジソン、素晴らしいひまわりを描いたフィンセント・V・ゴッホ、大胆な絵画や彫刻を制作したパブロ・ピカソ、神童と呼ばれた作曲家ヴォルフガング・A・モーツァルト(2007年にモーツァルトの生涯が映画化されている)など多くの偉人達が、なかなか周囲の人達に受け入れられなかった等のエピソードが残っています。

時として、みんなと違うことをすると叱られることがあります。「出る杭は打たれる」ということわざがあるくらいですから…。

でも、叱られてばかりいると、良いところまでも伸ばせなくなってしまいます。「自分は悪い子なんだ。出来ない子なんだ。」「叱られるからやるのをやめよう」と子どもが自分に自信を無くして努力することを諦め、自分の気持ちを抑えて生活するようになってしまうのです。自信を無くせば笑顔もなくなります。笑顔が少なくなると生きていることを“幸せ”だと感じにくくなってしまいます。

出来ることと出来ないこと、得意なことと不得意なことが、人間それぞれ違うけれど、それぞれが良いところを必ず持っています。しつげ上、叱らなければならないことはたくさんあるでしょう。でもその分、小さなこと・些細なことを褒めることで、自分に自信をもって前を向いて1歩1歩、笑顔で進んでいくことが出来ます。

「褒めることがみつからない」という声も聞きますが、小さな良いことを探してみましよう。“当たり前の中”にこそ、褒めるヒントはたくさんあります。たとえば…

- ・朝ちゃんと起きて偉いね。
- ・ご飯、沢山食べたね～今日も元気な証拠でうれしい。
- ・お茶碗運んでくれてすごく助かったわ、ありがとう。
- ・遅れずに登校できるってすごいことね。時間を守れている証拠だね。
- ・おはようって言ってくれたから、朝から気持ちが良いよ。
- ・宿題やってきたんだね～えらいね。
- ・静かにお話を聞いてくれてうれしい。

など、身近な家庭や学校など、探してみると身近な生活の中に褒めるヒントはたくさんあります。

しかし気を付けたいのは“褒める”ことと“甘やかす”ことは異なっている点です。

★褒める……人のしたこと・行いを優れていると評価して、そのことを伝え、称えること。

★甘やかす…子どもなどを厳しくしつげないで、わがままにさせておくこと。

『みんなちがって、みんないい』みんなそれぞれに、善い行いを一日にいくつもしているはずですが。それは大人も同じです。寝る前に、たまにはお子さんと一緒に、今日出来たこと、やってくれたこと、嬉しかったことや良かったことなど、3つ探し合ってから眠りについてみませんか？

【参考文献：金子みすゞ全集、goo 辞書】（文責：スクールソーシャルワーカー 杉山大成）



連絡先：本宮市教育委員会幼保学校課（本庁2階）

TEL: 33-1111 (内線 236) E-mail: ssw@city.motomiya.lg.jp